県立広島大学公開講座（2008 年度前期シティカレッジ）

月の文化誌

ー古今東西「月」を読むー

月は太陽とともに地球上で暮らす人間にとって、もっとも身近な天体であり、古今東西の神話・伝説や詩歌・絵画・音楽などの素材とされてきました。また、その運行にもとづいて暦が作られ、生活にリズムを与えてきました。人間にとって「月」とはどのようなものであったのか、文学・絵画・音楽などの多様な視点から考えます。

●日　時
平成 20 年 6 月 28 日～8 月 2 日（土）13:30-15:40（7 月 26 日は休み）

●会　場
広島市まちづくり市民交流プラザ北棟 6 階　マルチメディアスタジオ（広島市中区袋町 6-36）

●定　員
先着 100 人

●受講料
無料

●申　込
5 月 15 日（水）以降に，広島市ひと・まちネットワーク（電話 082-541-5335／FAX082-541-5611）へ電話またはＦＡＸでお申し込みください。大学では申込受付を行っていませんので，ご注意ください。

●主　催
広島市ひと・まちネットワーク，広島市，教育ネットワーク中国

● 内　容

6月28日（土）
- 月の愛で方ー信仰と風流ー　樹下 文隆
- 月と暦ー閏月を中心にー　秋山 伸隆

7月5日（土）
- 奥田元宋と「月」の絵画　奥田元宋・小由女美術館　渡邉 憲司
- かぐや姫のふるさとー日本文化の深層を探るー　西本 寮子

7月12日（土）
- マザーグースと月の絵本　田渕 桂子
- 西洋絵画と「月」　ひろしま美術館　古谷 可由

7月19日（土）
- 月と音楽　小玉 好行
- 昇天する魂ー近代文学の「月」ー　坂根 俊英

8月2日（土）
- 月に人を想う　柳川 順子
- 能から見る中世びとの月のイメージ　樹下 文隆

月の愛で方ー信仰と風流ー

樹下文隆

月への人々の関わり方は，実に多様です。お月見の風習があれば月を見ることを忌む発想もあります。満月は仏教では悟りの象徴として使われますが，三日月を信仰する人もいます。人は月にどんな思いを託すのでしょう。

月と暦ー閏月を中心にー

秋山伸隆

暦は時の流れを日・月・年の単位によって区切り数えるようにしたものです。旧暦では，もう一度同じ月を繰り返す閏月がありました。一年が１３か月になると，生活にどのような影響があったのかを考えてみます。

奥田元宋と「月」の絵画

渡邉憲司

奥田元宋・小由女美術館は，奥田元宋の描く「月に照らし出された世界」の絵画を紹介し，そして美術館のロビーでは夜空に映える月の表情を観賞できます。元宋の絵に描かれた様々な月と，美術館から眺める月の魅力についてお話しします。

かぐや姫のふるさとー日本文化の深層を探るー

西本寮子

物思いのない「月」の世界に帰って行ったかぐや姫の話は『源氏物語』をはじめとする後の文学に大きな影響を与えました。「月」を軸として『竹取物語』の世界を振り返り，日本の文学や文化の中にかぐや姫のお話の「型」を探ります。

マザーグースと月の絵本

田渕桂子

英米の伝承童謡マザーグースから月を題材にした唄を選び，西洋における月のイメージを探ります。また，絵本では月がどのように描かれているのか，子どもたちは月に何を見て，何を求めていたのかを考えてみます。

西洋絵画と「月」

古谷可由

日本には月をモチーフとした絵画が数多くありますが，ヨーロッパではどうでしょうか。澄み切った夜空に見える月の美しさを，ヨーロッパの画家たちはどのように感じ表現したのか，作品を鑑賞しながらお話しします。

月と音楽

小玉好行

月に因むクラシック音楽，とりわけ，ベートーヴェンやドビュッシーなどのピアノ曲及びドヴォルザークのアリアなどについて解説するとともに，CD や DVD などで各楽曲を鑑賞します。

昇天する魂　ー近代文学の「月」ー

坂根俊英

梶井基次郎の短編「Kの昇天」において，海で死んだ主人公は溺死したのか，それとも月へ昇天したのか？この神秘的な小説について考察します。また，萩原朔太郎の詩集『月に吠える』における「月」についても読み解きます。

月に人を想う

柳川順子

満月をながめながら遠方にいる友人に思いを馳せた白居易の詩「八月十五日夜，禁中独直，対月憶元九」を味読します。あわせて，この詩を巧みに用いた『源氏物語』須磨の巻の一節にも触れてみます。

能から見る中世びとの月のイメージ

樹下文隆

花鳥風月，略して花月は風流・風雅を意味し，花と月は春と秋を象徴し，四季の移ろいに心情を託す日本人の美意識のふるさとです。月，特に秋の月のイメージがどのように確立していったのかを，能の作品から考えます。